

ないようである。しかしいろいろな新しい方法の測定を試みようとしていることがわかった。

また展示が各会社によりおこなわれたが、その多くが工業界で用いる湿度計または湿度の自動測定などの会社であり、測定のむずかしいところに対して、研究している会社の少ないことも知ることができた。また筆者が興味を持つ、南極のような低温領域での湿度の測定のむずかしさについても改めて認識した。

### 5. 終わりに

まったく知り合いのいない会議なので心配していたが、主催者側で、各セッションごとの発表者だけの朝食会を企画し、関係の人々の出会いの場を作ってくれた。このことは非常に良い企画と感心した。4日間の短い会議であり、また良くわからない英語を聞いてくたびれもしたが、日本ではあまり話題にならない内容について討論でき、非常に有意義であった。このシンポジウムの論文集はすでに刊行されているが1028ページもの部厚いものでびっくりさせられた。

## IAMAP 総会（ホノルル）への会員の派遣に関する報告

国際学術交流委員会

国際学術交流事業の一環として、IAMAP 総会（ホノルル）へ下記のように会員の派遣を実施しました。出席補助金受領候補者の募集に対して7名の応募者があり、選考の結果4名が補助金を受領しました。

### 記

1. 受領補助金額：1名につき75,000円
2. 派遣者名及び研究発表課題名（イロハ順）  
伊藤朋之（気象研究所）  
南極対流圏におけるエーロゾルの気球による観

### 測

- 中島健介（東大理学部大学院）  
積雲を分解した熱帯大気数値モデルにおける大規模構造の自発的生成
- 林 祥介（東大理学部）  
Air-Sea Coupled System の伝播方向について
- 山崎孝治（気象研究所）  
Atmospheric response to the sea surface temperature anomalies observed in early summer of 1983: A numerical experiment

## 月例会「南極圏の気象」第4回会合のお知らせ

### テーマ「海氷と気候」

日時：昭和60年10月28日（月）16：00～19：00（秋季大会の前日です）

場所：大阪管区气象台 7階会議室  
（大阪市東区法門坂町6-25、大阪合同庁舎第2号館、地下鉄谷町四丁目下車）

### プログラム

1. 南極海氷の特性と気候

小野延雄（北大・低温研）

2. 南極海水域の大気と与える影響  
高原浩志（名大・水圏研）

3. 海氷と海洋の相互作用  
酒井 敏（京大・教養）

連絡先 国立極地研究所 山内 恭  
TEL 03 (962) 4711 (内線 451)